

主な出来事

【内政】

- ンカテ前駐日大使, 大統領の座を狙う
- マカト保健大臣, 与党 BDP 婦人部長に再任
- 野党BCP, 電子投票制度に関し独立選挙委員会を提訴

【外政】

- カーマ大統領, ベルリン国際ツーリズム・マーケット展に出席
- 日本政府がボツワナ公務員を指導
- ボツワナ政府・パレスチナとの外交関係を樹立

【経済】

- ダイヤモンド関連の歳入, 市場の回復を受け, 前年度比63%増加
- 中国石油化工, Caltex ボツワナを買収
- 公務員給与等の改定

【文化】

- 日本政府の支援による柔道道場引渡式の開催
- 日本大使館がソフトボールを支援

【内政】

○ 政府, Gabz FM の放送を禁止

ボツワナ通信規制庁(BOCRA)は, Gabz FM が通信規制法第37条に違反したとして放送禁止処分を下した。同FM局は2016年9月に米国人反同性愛者であるスティーヴン・アンダーソン牧師のインタビューを放送。その放送内容が子供に対し不適でありヘイト・スピーチを助長しているとした。また, 同インタビューの放送直後には番組ホストを務める Gabz FM ジャーナリストのリチャードソン氏が解雇されている。(5日:サンデー・スタンダード紙)

○ カーマ大統領, トロクエン補欠選挙の実施に二の足

トロクエン地区選出議員が亡くなり, 補欠選挙の実施日程が決まらないまま, すでに3ヶ月が経過している。補選の実施は空席となってから90日以内と定められており, 野党や識者からは, 与党の選挙準備が出来ていないための意図的な遅延だと批判が出ている。補選の実施は大統領の勅命で決定される。(8日:メヒ紙)

○ ンカテ前駐日大使, 大統領の座を狙う

元閣僚で前駐日大使のンカテ氏は2019年総選挙で大統領に立候補する権利があると語った。同氏は, 現幹事長であるマシシ副大統領との対立を避け, 7月の与党ボツワナ民主党(BDP)党

大会では幹事長ではなく事務局長に立候補すると表明していた。(11日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ **モレフィ・インフラ・住宅開発大臣, 幹事長ポスト当選時には閣僚を辞任する意向**

7月の与党BDP党大会で幹事長ポストに立候補することを表明しているモレフィ・インフラ・住宅開発大臣は、幹事長に当選した場合には、同職に専念するため大臣職を辞任するとカーマ大統領に報告したことが明らかになった。(11日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ **約700件のマラリア罹患を記録**

エルハラビ保健省次官は、最近の豪雨で新たにマラリアに罹患した患者672名が報告されており、そのうち60%がオカバンゴ地域で罹患した旨発言した。また、同次官は国民に対し、マラリアが発生しやすい国に旅行する二週間前には医師の助言を受けるとともに、マラリアが多く発生する地域では防虫蚊帳の中で睡眠をとるよう呼びかけた。(15日:メヒ紙)

○ **マカト保健大臣, 与党BDP 婦人部長に再任**

マウンで開催された与党BDP婦人部会における婦人部長選挙でマカト保健大臣が無投票で再選を果たした。同氏は、この当選は過去2年間の適切な部会運営と女性党員の忠誠に起因するものだとインタビューに答えた。なお、婦人副部長には、レソレ元ハボロネ市長が選出された。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ **野党BCP, 電子投票に関し独立選挙委員会を提訴**

20日、野党ボツワナ会議党(BCP)は、政府が昨年導入を決定した電子投票制度に関し、独立選挙委員会を提訴した。BCPは改正選挙法(2016)第7号に定められた「選挙における電子投票の利用」が憲法第32条3項に定められた「ballot による投票の実施」に抵触すると主張。(24日:メヒ紙)

○ **バロピ氏, BDP事務局長選に立候補**

与党BDP中央委員会メンバーであるムフォ・バロピ氏が、7月の党大会で行われる事務局長選に立候補することが明らかになった。同氏は、現職のンツァネ事務局長とンカテ元駐日大使と同ポストを争う。同氏は、与党の重鎮であるパトリック・バロピ元国会議長と親戚関係にある。(25日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ **停職中の裁判官らが職務に復帰**

27日、2015年9月から停職処分を受けていた裁判官4名と司法当局との間で示談が成立し、近く職務に復帰することが明らかになった。裁判官4名は不当に住居手当を受給していたとしてカーマ大統領から停職処分を受けていた。(28日:メヒ紙)

【外交】

○ カーマ大統領, ベルリン国際ツーリズム・マーケット展に出席

6日, カーマ大統領はベルリン国際ツーリズム・マーケット展示会出席のためハボロネを出発する。ボツワナは2017年同展示会のオフィシャル・パートナーであり, カーマ大統領は主賓として招かれスピーチを行う。同大統領はガウク独大統領及びメルケル独首相とも会談する予定。本式典にはカーマ環境・天然資源保護・観光大臣も出席する。(6日: デイリー・ニュース紙)

○ 日本政府がボツワナ公務員を指導

3月6日から15日にかけて日本政府はJICAを通じ, ボツワナ公務員23名に対する研修を日本で行う。参加者の多くは公務員管理局(DPSM)とボツワナ公務員研修所(BPSC)の職員であり, 研修では採用試験や給与制度など日本の公務員制度について説明が行われる。(7日: メヒ紙)

○ 南スーダンがボツワナに対し奨学生100人の受け入れを要請

南スーダン政府は自国の困窮する政治・経済状況を理由にボツワナ政府に対し奨学生100名の受け入れを要請した。トゥット・南スーダン教育・科学技術大臣は, マディヘレ・ボツワナ高等教育・研究・科学技術大臣を訪れ, 大学や職業訓練校などに南スーダン奨学生を受け入れてもらうよう要請。ボツワナは過去に19人の南スーダン奨学生を受け入れている。(8日: デイリー・ニュース紙)

○ 新デンマーク大使, 新スロバキア大使, 新ルーマニア大使が信任状を捧呈

タイゲセン新デンマーク大使, トマソヴィコヴァ新スロバキア大使, ボラネスク新ルーマニア大使は, カーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し, ボラネスク新ルーマニア大使は, ボツワナは科学技術と社会開発の分野で発展しているとし, さらなる二国間関係の強化を目指したい旨語った。各大使は南アに駐在する。(14日: デイリー・ニュース紙)

○ ベンソン=モイトイ外相, SADC首脳会合に出席

ベンソン=モイトイ外務国際協力大臣は, スワジランドで18日に開催されるSADC首脳会合でボツワナミッションの代表を務める。ミッションにはマタンボ財務開発大臣, セレッツェ投資通商産業大臣らが同行する予定。また, SADCダブル・トロイカ会合は17日に開催され, レソト, コンゴ(共)を含む域内の政治・治安状況について協議される。(17日: デイリー・ニュース)

○ ボツワナ政府・パレスチナとの外交関係を樹立

8日, ニューヨークで, ボツワナ政府はパレスチナとの共同コミュニケに署名し, 同国との外交関係を樹立した。コミュニケへの署名は, ントワハエ・ボツワナ国連大使とマンスール・パレスチナ国連オブザーバー代表との間で執り行われた。パレスチナはこれまでに137カ国から国家承認を受け, ボツワナは1988年12月19日にパレスチナを国家承認していた。(17日: デイリー・ニュース紙)

○ 新ガボン大使, 新エジプト大使, 新ニュージーランド大使の信任状の捧呈

20日, アングイレ新ガボン大使, イサ新エジプト大使, バレル新ニュージーランド高等弁務官がカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対しイサ・エジプト大使は灌漑, 農業, 土木, 再生可能エネルギー分野での技術協力について語るとともに, 国際場裏におけるボツワナからの支持の重要性を強調した。各大使は南アに駐在する。(22日: デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

1) 経済成長率

2016年第4四半期の経済成長率は, 前期比0.1%(同年第3四半期の経済成長率は, 前期比マイナス1.1%)。

2) インフレ率

2017年2月は3.4%(2017年1月は3.1%)。

3) 為替レート(出典: First National Bank of Botswana)

2017年3月31日

1プラ=0.093米ドル
1プラ=1.226南ア・ランド
1プラ=10.44円

2017年2月28日
1プラ=0.094米ドル
1プラ=1.208南ア・ランド
1プラ=10.63円

○ ダイヤモンド産業

1) デビアス社の売上, ダイヤモンド原石の安定的な需要を示唆

デビアス社の2月のダイヤモンド原石の売上は5億4500万ドルとなり, 年始から原石の需要が安定している。ムンバイを拠点とするダイヤモンド卸売業者によると, 昨年11月のインド政府のデノミの影響でインドにおけるダイヤモンド原石の需要が落ち込んでいたが, その後需要が回復し, ダイヤモンドの生産は正常な状態に戻った。(2日: メヒ紙)

2) ダイヤモンド関連の歳入, 市場の回復を受け, 前年度比63%増加

ケボナン鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣は, 国民議会の供給委員会における答弁で2016年の鉱業における鉱物関連の歳入が, ダイヤモンドの売上の回復を受け, 2015年に比して63%増加した旨発言した。さらに同大臣によると, 2016年上半期においてはベースメタルなどの国際的な価格が下落したものの, ダイヤモンド売上市場が引き続き回復した。その結果, 2015年には1470万カラットであったダイヤモンドの販売量は2016年には2630万カラットを記録し, これらの販売による歳入は, 2015年の24億万ドルから39億万ドルに増加した。(17

日:メヒ紙)

○ エネルギー・資源

1) Mowana 鉱山再稼働の採掘企業を決定

Alecto Mineral 社(英)は、Mowana 鉱山の操業再開に際し、Giant Transport Holdings 社を採掘企業に決定した旨発表した。Mowana 鉱山の操業は、Diesel Power Limited 社が4700万プラ以上の債務により、暫定的清算の申請を行った2015年11月から停止している。Alecto Mineral 社によると、現在同鉱山の再稼働に向けて現地スタッフの雇用を進めている。同社は、同鉱山の再稼働で現在の銅の価格で2億4500万ドルの売上を見込んでいる。(1日:メヒ紙)

2) ガソリン小売価格の値上げ

2日、政府はガソリン小売価格の値上げを発表した。鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省の発表によると、4日付けでガソリン93(当館注:オクタン成分の含有量が比較的低いガソリン)及びガソリン95(当館注:オクタン成分の含有量が比較的高いガソリン)の小売価格を1リットル当たり20テベ(0.2プラ)、ディーゼル500PPM(当館注:硫黄成分の含有量が低いディーゼル500PPM)に比べ、硫黄成分を多く含むディーゼルを1リットル当たり25テベ(0.25プラ)値上げする。(5日:サンデー・スタンダード紙)

3) 中国石油化工, Caltex ボツワナを買収

中国国有石油大手である中国石油化工(Shinope)は、シェブロン(米)の南アとボツワナの石油事業を買収すると発表した。今次買収対象は、南アフリカ・ケープタウンの製油所や南ア及びボツワナの820以上のガソリンスタンド及び220以上の併設する小売店等で、買収額は9億米ドル。シェブロンはボツワナにおいてブランド名をCaltexとしてガソリン小売事業を展開しており、中国石油化工は今次買収によってシェブロン・ボツワナの100%の株式を取得した。(24日:メヒ紙)

4) Tlou Energy 社, ガス発電計画に4000万プラを調達

Tlou Energy 社(英, 豪)はセントラル地区のレセディ石炭層メタン計画に使用するための資金4000万プラ(520万豪ドル)を新規及び既存の関連会社から調達したと発表した。同プロジェクトはボツワナで最初のガス発電計画となる見通し。同社は、2月にボツワナ政府から100MWを上限とするガス発電の開発に係る提案書の要請(Request for Proposal:RFP)を受け取ったとしている。(27日:メヒ紙)

○ ボツワナ投資貿易センター(BITC)CEOの退任

ボツワナ投資貿易センターは三年間の契約満了に伴うセジョエ同センターCEOの退任を発表した。同CEO退任に伴い、1日付けでツェケディCOOがCEO代理に就任した。(2日:メヒ紙)

○ 中国ユニオン・ペイ・インターナショナルとバークレー銀行との提携

ボツワナ・バークレー銀行と中国ユニオン・ペイ・インターナショナルとの提携を記念する式が開催された。同式典で、ヤンボ中国大使は「銀行カードでの支払いに対する需要が増した結果、ボツワナ・バークレー銀行とユニオン・ペイ・インターナショナルの提携が実現し、同提携が両国の貿易及び人々の交流を促進していく」旨発言した。(6日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ鉄道, 次の民営化候補に

モカイラ運輸通信大臣は、記者会見において、ボツワナ鉄道(Botswana Railways)の民営化計画について言及し、民営化によってボツワナ鉄道の操業に係る政府の財政的な負担を軽減することができる旨述べた。同大臣によると、ボツワナ鉄道その他、ボツワナ航空(Air Botswana)及び国家開発銀行(National Development Bank)が民営化の候補となっている。(14日:メヒ紙)

○ カズングラ橋建設計画の遅延

7日、チョベ地区の開発担当職員であるレボアネ氏は、カズングラ橋建設事業のパッケージ2(ボツワナ側のOSBP施設及びアクセス道路)の完成予定は2018年9月であるが、大雨と浸水の結果として、工事は10週間の遅れが生じていると述べた。地区評議会開発委員会のレポートによれば、カズングラ橋建設事業全体としては、4ヶ月の遅れが生じており、同氏は建設事業者(大宇建設)の安全管理の不備、熟練労働者不足、度重なる機器の故障が課題とした。(29日:デイリー・ニュース紙)

○ 公務員給与等の改定

政府は4月1日付けで公務員組合に加入していない公務員の給与、手当、福利厚生等を改定する旨発表した。同発表によると、公務員組合に加入していない公務員に対して、一律4%の給与の引き上げと住居手当等の手当100プラの引き上げを実施し、老齢年金や第二次世界大戦参加退役者への年金等の社会手当を一律100プラ引き上げる。(30日:デイリー・ニュース紙)

【文化】

○ ボツワナと日本は柔道パートナー

2月28日、日本政府支援で建設された柔道道場の引渡式が開催された。同式典で尾西在ボツワナ日本国大使は、建設された柔道道場で練習したボツワナ人柔道家が2020年東京オリンピックに参加することを願う旨述べた。ボツワナ政府代表として出席したラモカテ青少年向上・スポーツ文化開発省次官は、柔道道場はボツワナ・スポーツ界にとって重要なマイルストーンである旨述べた。また、式典には柔道金メダリストである田知本指導者が訪れボツワナ人柔道家との模範試合を行った。(2日:デイリー・ニュース紙)

○ **日本大使館がソフトボールを支援**

3日、日本政府の支援による「ソフトボール球技場及び器材整備計画」の署名式が実施された。同式典で尾西在ボツワナ日本国大使は、2020年東京オリンピックでは女子ソフトボールが競技種目として採用されているので、この球技場で練習したボツワナのチームが出場することを望む旨述べた。また、式典で署名を行ったムココマニ・ボツワナソフトボール協会(BSA)会長は支援に対する感謝を示すと共に、ソフトボールコーチ(青年海外協力隊)の派遣についても謝意を述べた。
(6日:デイリー・ニュース紙)